

議 事 要 旨

会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	平成29年1月27日(金) 19:00～21:00
場 所	大会議室(徳島大学病院中央診療棟)
出 席 者	埴淵会長、金山部会長、寺嶋委員、郡委員、郷委員、仁木委員、漆川委員(井村)、坂東委員(水田)、正宗委員、片山委員、林委員、森委員、勢井委員、鎌村委員、東條委員、山口委員、猪井委員 ※()は代理出席者〔敬称略〕
実務者	徳島大学病院:鈴木副看護部長、福田社会福祉士、秋月社会福祉士、丸龍相談看護師
欠席者	藤原委員、安藤委員、木田委員
陪席	徳島県健康増進課:白井主事 徳島赤十字病院:豊野医療・がん相談担当参事 徳島大学病院:小林係長、阿部主任、宮越事務補佐員

議 題

金山部会長の司会進行のもと、がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議が開催された。開催にあたり、埴淵徳島県がん診療連携協議会会長から挨拶があった。

【報告事項】

1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について

徳島大学病院実務者の鈴木副看護部長から、別紙資料「第8回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会」についての報告があった。

(1) 第8回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会

平成28年12月8日に第8回部会が開催され、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会長である金山部会長と鈴木副看護部長が参加した。

今回の部会では「がん相談支援センターの役割に関するアンケート」の概要報告並びにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について報告があった。第3期がん対策推進基本計画に向けて、がん相談支援センターの活動及び評価について、部会としての提案を行うために、職種、病院種別、地域のバランスを考慮した10人程度のワーキンググループを発足した。がん相談支援センターが担うべき役割に関するアンケート実施したり、ワーキンググループを開催した結果、社会全般の状況と顕在化している困難、社会保障制度上の困難、医療体制の変化・ひずみによる困難、地域・全国のネットワーク、機関連携に関わる課題、がん相談支援センターのアクセスに関わる課題、がん相談支援センターの院内における機能・立場、がん相談支援センターの役割の内、対応困難な点があった。

ワーキンググループでの議論として、(1)がん相談支援センターの機能を強化し、困難を抱えた人のがん相談支援センターに適切に繋げるための対応(2)医療体制の変化やひずみ、進歩や社会状況の変化に対応した制度的な支援策の拡充(3)国民の医療や健康に関する知識・リテラシーの向上と日常において病や生死に関わる課題に向き合える国民風土の醸成に向けた長期的な取り組みについて議論された。

また、就労支援をめぐる施策の動向とがん相談支援センターの役割として、①がん患者のおかれ

ている状況と就労支援の現状について(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課)②ハローワークにおけるがん患者等就職支援事業について(厚生労働省 職業安定局 首席職業指導官室)③「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」について(厚生労働省 労働基準局安全衛生部 産業保健支援室)の報告があった。

研究班からの報告として、研究班によるパイロット調査における相談件数カウント調査を行った。WGからの相談件数に対する考え方は、相談件数もがん相談支援センターの活動の重要な指標の1つである。指標として採用するためには、統一した方法で測定可能な形にする必要がある。統一するとすると、すでに様々な方法が運用されているため、方法を変更する施設が出ることは避けられない。最も合意しやすいのは、現状でも多くの都道府県・施設が採用している「相談記入シート」を元に、これを使用した場合の解釈、運用の相違をなくすことが合理的。相談件数を明示するのは、他の施設と競ったり、補助金の上乗せを意図するものではなく、他施設の状況を知り、自施設の活動の改善に自主的に役立てるための資料とすることが有用との結論に至った。WGからの提案として、①基本方針に則り、作成した修正版相談記入シートによって相談件数を統一して把握する。②統一した方式で相談件数を把握することにより、「活動の見える化」に寄与する数値を算出する。③データの全国の提出方法については、部会事務局であるがん対策情報センター又は、関連研究班による支援を受けることで負担の少ない記録方式を検討する。①～③の提案に沿った形で実施するかどうか、各都道府県毎に意見を取りまとめ、次回部会にて決定してはどうかとの意見があった。次回の部会については、平成29年7月12日(水)開催予定であるとの報告があった。

続けて鈴木副看護部長から、参考資料「がん相談支援センター相談記入シート」を基に説明があった。記入シートはチェック方式となっており、徳島県として統一した相談記入シートを使用するか検討いただきたいとの要望があった。

金山部会長から、がん相談支援センター周知については、昨年に徳島県民フォーラムを行うなど周知ができてきている。就労支援については、厚労省もサポートをおこない、徳島県もハローワークとの連携も進んできている。相談件数も将来的に保険請求に繋がっていくのであれば統一した方法をしていくべきではないのかとの意見があった。

寺嶋委員から、徳島県内では統一した相談記入シートを使用していないのかとの質問があった。

徳島大学病院実務者の福田社会福祉士から、他のがん診療連携拠点病院が統一相談記入シートを使用しているかは把握していないが、徳島大学病院は統一相談記入シートではないが、かなり以前から統一相談記入シートが議論されており統一相談記入シートの内容をチェックできる形での相談シートを作成し使用しており、統一相談記入シートの集計は可能であるとの回答があった。

金山部会長から、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会では、研究班によるパイロット調査に参加していた県からは使用しにくいとの意見等もあったとの報告があった。

寺嶋委員から、iPadで使用できるならチェックも早いかもしれないが、30分の相談対応でもいくつかの項目をチェックしているのではないのかとの意見があった。

福田社会福祉士から、1つの項目で終わっている方もいるが、色々は話を聞くと多数の問題があるため、複数チェックが入るのではないのかとの意見があった。

金山部会長から、実務者で相談していただき、項目なども変更するかどうかなど検討していただきたいとの要望があった。

福田社会福祉士から、実務者のワーキンググループで検討を行いたいとの意見があった。

2. 徳島県民がんフォーラム報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島県民がんフォーラム2016実施報告者」について報告があった。

① 平成28年9月25日(日)13:30～16:30徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。

②内容は国立がん研究センターがん対策情報センターの若尾センター長、徳島県保健福祉部の鎌村次長、ガンフレンドの勢井代表らに講演いただいた。

② 当日の総来場者は509人と非常に多数の参加があった。アンケート結果は資料を参照。

金山部会長から、講演後はがん相談支援センターの周知を行ったことから、当院のがん相談支援センターには相談者が増えた。今後も、毎年ではないが市民公開講座を行いたいため、その際には協力をお願いしたいとの要望があった。

3. PDCAサイクルについて

福田社会福祉士から、別紙資料に基づき「徳島県がん相談支援センターPDCA 実施状況チェックリスト」について説明があった。

今年度は昨年同様、徳島県都道府県・地域がん診療連携拠点病院と地域がん診療病院で実施を行った。チェックリストは全国の様式を徳島県版として置き換えてオリジナルで作成して使用している。今年度も自施設でチェックを行い、他院の実施状況を把握し、他院の取り組みも参考にしながら情報共有や情報交換などに活用している。また、各病院のがん相談支援センターの質の向上や均てん化に向けて、今後も実務者ワーキングでも検討していきたいとの要望があった。

金山部会長から、PDCA 実施状況チェックリストのチェックが出来ていないところをチェックが入るよう努力していただきたいとの意見があった。

勢井委員から、がん相談支援センターで相談された患者さんの中には、患者さんと相談したいとの声が多い。自身と同じ年代・性別や病気の方と話がしたいなどの患者さんの要望を聞いていただき、その方を経験した方などにつなげていただけるよう構築していただきたいとの要望があった。

金山部会長から、以前から勢井委員からも要望があり、患者さんからも同じ経験者の方と話がしたいとの意見もあったため、がんサロンの中でがん種類別のがんサロンも開催出来ればいいのではないかとの意見があった。

寺嶋委員から、ピアサポーターのフォローアップ研修を行った。約20名程度の方が参加した。その研修でピアサポーターの横の連絡会などを作り、病院等から患者さんの相談希望があれば連絡をして紹介をしていくなどの案もあったため、今後は考えていきたいとの報告があった。

金山部会長から、今後はピアサポーターの人数を増やすことが目標である。ピアサポーターの数が増えてくると、多数のがん腫の方も増えるため、患者さんからの要望に対応できるのではないかとの意見があった。

勢井委員から、ピアサポーターの数を増やしていただき、がん相談支援センターとも連携しながら構築できればいいのではないかとの意見があった。

金山部会長から、徳島県のサポートも必要ではないのかとの意見があった。

勢井委員から、全国会議の中で、がん相談支援センターの相談員の立ち位置が正規ではなく非正規の方が多いと聞いた。相談員の立場を厚労省に意見したとの報告があった。

4. 実務者のがん相談支援センター相談員研修会等について

福田社会福祉士から、別紙資料「平成28年度徳島県がん相談員養成研修会」について報告があった。今回は、緩和ケアについて考えませんかとの内容で地域がん診療連携拠点病院の相談員を対象に行った。参加者は22名であった。アンケート結果については資料を参照。「第2回徳島県がん相談員研修」を開催した。参加者はがん相談員とピアサポーターの方も参加され、36名の参加があった。今回は、キャンサー・ソリューションズ(株)の桜井なおみ氏やガンフレンド勢井代表、ハローワーク、大鵬薬品人事課の方にも講演いただいた。アンケート結果は資料を参照。

金山部会長から、ピアサポーターの方も何人か参加したのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、10名以上の方が参加されたとの回答があった。

金山部会長から、ピアサポーターの方とがん相談員が意識共有できて、有意義な会であったのではないと思う。このような研修会は毎年開催するのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、毎年2回、都道府県・地域がん診療連携拠点病院対象と、地域の病院対象で開催する予定であるとの回答があった。

勢井委員から、戦略的災害医療プロジェクトとして徳島県委託事業の「第2回徳島県医療関係者とがん患者会等とのネットワーク構築研修会」を平成29年3月5日に徳島県立三好病院、平成29年2月26日に阿南市ひまわり会館で開催予定である。県南会場では津波を伴う地震として石巻から、県西部会場では内陸型地震として熊本から演者を招聘しているため、案内状を配布しているため是非参加いただきたいとの要望があった。

埴淵会長から、徳島大学病院には案内が届いており、院内には周知を行うとの意見があった。

寺嶋委員から、案内を拝見するかぎりでは、行政が動かないといけないが徳島県健康増進課や危機管理政策課しか入っておらず、地元の保健所や市役所等が入っていないが、これでいいのかとの質問があった。

勢井委員から、ご指摘の通りである。県南に関しては阿南市市長に依頼を行った。県西部に関しては、案内をする予定にしているが寺嶋委員にもお願いしたいとの要望があった。

【協議事項】

5. 来年度事業計画について

金山部会長から、以前に地域の情報を掲載した療養手帳を作成する予定となっており、徳島赤十字病院島村社会福祉士から徳島赤十字病院で作成している内容を徳島県版として案を提示いただけることとなっていたと思うが、その後の進捗状況はどうなっているのかとの質問があった。

徳島赤十字病院豊野医療・がん相談担当参事から、確認しておくとの回答があった。

金山部会長から、確認いただき実務者レベルで検討して進めていただきたいとの要望があった。

金山部会長から、徳島県がん相談員研修会の予定はどうなっているのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、来年度も都道府県・地域がん診療連携拠点病院対象と、地域の病院対象で開催する予定で企画を行ってもよいかとの要望があり、了承された。

金山部会長から、ピアサポーターの研修はどこが主催しているのかとの質問があった。

寺嶋委員から、今年度は徳島県健康増進課が開催を行ったため、来年度も徳島県健康増進課に託しても構わないのかとの質問があった。

勢井委員から、来年度も徳島県健康増進課の平田課長補佐に依頼をしているとの回答があった。

金山部会長から、研修会は年に1回の予定であるか、何人くらい参加するののかとの質問があった。
勢井委員から、年1回の開催を行い7~8人の参加である。やはり、ピアサポーターの人数を増やさなければいけない。他県の方はピアサポーターのスキルアップを言われるが、私自身としては相手を思いやる心さえあればいいのではないかと思っている。今後も、研修企画を頼みたいとの要望があった。

寺嶋委員から、がん診療連携拠点病院からするとピアサポーターの方に相談対応を依頼する中で、トラブル等を危惧しているのではないかとの意見があった。

勢井委員から、トラブルがあったとしても相談員が患者さんに感想を聞いていただき、良い方だけを篩にかけていただければ、相談員の需要も高まるのではないかとの意見があった。

6. その他

勢井委員から、かがわがんサミットが平成29年1月22日に開催された。日本対がん協会会長垣添先生の基調講演、パネルディスカッション、分科会の内容であった。香川県ではフォーラムが開催されれば、香川県がん検診受診率向上プロジェクトが必ず検診受診を呼びかけている。徳島県もがん検診率向上プロジェクトを行っており、フォーラム等に共催にしていきたいとの要望があった。

金山部会長から、がん検診率向上プロジェクトはどこがやっているのかとの質問があった。

勢井委員から、NPO法人AWAがん対策募金を実施しているとの回答があった。

金山部会長から、徳島県も検討したいとの意見があった。

埴淵会長から、この部会のメンバーに薬剤師の方が入っていないことから、薬剤師会からメンバーに参加して頂いてはどうかとの意見があった。

鎌村委員から、前回の徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会で薬剤師会の方にメンバーに参加していただいていたどうかとの意見があり、徳島県薬剤師会や徳島県病院薬剤師会等があり、今後は薬剤師会の参加を検討いただきたいとの要望があった。

金山部会長から、埴淵会長に検討いただきたいとの要望があった。

鎌村委員から、ピアサポーターの養成について実際にピアサポーターの依頼しているのは徳島赤十字病院のみとなっているが、他のがん診療連携病院の必要性はどうか、今後の方向性を教えていただきたいとの質問があった。

寺嶋委員から、徳島県立中央病院は来年度からボランティアとして登録して活動領域にいらしてくださいようボランティア委員会で協議し、ピアサポーターの相談事業やがんサロンの運営補助作業を行っていただく予定にしているとの回答があった。

鎌村委員から、ピアサポーターの方が活動する上で、自身の治療病院と違う病院での対応などは難しいのではないかと、そのあたりはどうかとの質問があった。

寺嶋委員から、徳島市民病院のがんサロンは自院の患者さん対象となっているが、徳島県立中央病院は他院の患者さんも対象である。常時参加している方に、ボランティア登録をしていただき、随時相談があれば個別に対応していただく体制を作りたいとの回答があった。

郡委員から、もっと人が増えてくればピアサポーターの方の窓口等を設けて、そこから要請していけばいいが、がん診療連携拠点病院も対応がうまく動いていないため、病院を超えた支援が必要ではないかとの意見があった。

徳島大学病院小林係長から、徳島大学病院患者支援センターでは難病と病気に特化した部分のピ

ピアサポーターの相談対応をしている。ボランティア登録を行い、患者支援センターの相談室を利用して特定の診療科が曜日と時間を限定してそこに患者さんを紹介し相談対応を行っている。難病に関しては徳島県難病医療ネットワーク事業と徳島大学病院が協定を結んで行っている。相談員が患者さんの情報を聞いてピアサポーターに繋ぐことは個人情報保護に反することなので出来ないため、患者さんに日時をお知らせして相談に繋ぐようにしている。がんピアサポーターの実現に向けては、1人1人とボランティア登録を行うことが難しく、ピアサポーターを認定している事業所や徳島県健康増進課がとりまとめて、協定を結んでいただくと進んでいくのではないかとの意見があった。

勢井委員から、個人情報とはどちら側の個人情報なのかとの質問があった。

小林係長から、患者さんがピアサポーターに依頼した場合、がんの情報まで照会するため第3者に情報を教えることは難しい。難病は、徳島大学病院が場所を提供するだけで、徳島県難病医療ネットワークに予約を行い、ピアサポーターの調整をしていただける。非常に難しい問題であるとの回答があった。

金山部会長から、とりまとめをしていただけるといいが、どこがとりまとめているのかとの質問があった。

鎌村委員から、みんなで検討していきませんかとの要望があった。

勢井委員から、徳島赤十字病院ではピアサポーター2名の登録をしており、2年間で4件の相談があったとの実績報告があった。

郡委員から、がん患者さんがピアサポーターの存在も知らない、相談できることも知らない。ピアサポーター養成についても知らない。もっと広報が必要ではないかとの意見があった。

寺嶋委員から、誰でもがなると相談員が非常に恐れているため、信頼できる方を認定したいとの要望があった。

郡委員から、元気になられた方がなれば、それに似合った患者さんの相談もあるのではないかと、パワーのある方も上手に調整していただければ患者さんも元気になれる。あまり制限せずに、やりたいと希望する方になっていただき、人数を増やしていくのもいいのではないかとの意見があった。

勢井委員から、病院だけに問題があるのではなくピアサポーターにも問題があるため、徳島県としてうまく事業が進んでいけばいいのではないかとの意見があった。

金山部会長から、徳島県と協力しながら事業も進めていきたい。今後ともご協力をお願いしたいとの要望があり、閉会となった。